



特定化学物質無配合
1成分形遮熱型ウレタン塗膜防水材

FSコート・ゼロ

免責事項シーカ製品の施工および使用に関する推奨その他の情報は、当社の現時点での知識および経験に従ったものであり、通常の条件下で当社の推奨に従い適切に保管・処理・施工されることを前提としております。実際には、材料・接着面・現場の条件がそれぞれ異なるため、ここに記載されている情報、書面による推奨その他のアドバイスは、商品性や特定目的への適合性について保証するものではなく、また法的関係に基づく責任を生じさせるものではありません。ユーザーは、シーカ製品がユーザーの意図する施工方法および目的に適しているかどうかを、必ず事前に確認してください。特に、施工、施工管理及び施工に関する報告書の作成はユーザーの責任において行うものにご留意ください。当社は、第三者の財産権を尊重し、製品の特性を変更する権利を有します。すべての注文は、当社の最新の販売・納品条件に従って受注します。ユーザーは常に、使用する製品のプロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版をご参照ください。プロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版は、ご請求いただければ当社がご提供いたします。

2023年4月1日よりシーカグループのディックブルーフィング株式会社は日本シーカ株式会社に統合され、新たにシーカ・ジャパン株式会社としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト
<https://www.dpcdpc.com/>
にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。



(24.8月現在)24.08.1.000 SJ



特定化学物質無配合
1成分形遮熱型ウレタン塗膜防水材料

FSコート・ゼロ

先進の環境対応&塗膜品質&施工効率！

ウレタン塗膜防水材料の新時代が始まります。

防水型塗装材という考え方

建物を守ること。それは、大切な資産を守ること。FSコート・ゼロは、大切な資産を取り替え・廃棄をせずに再生することを目指しています。

一般に屋根は、雨漏りが起こりにくい優れた構造であるといわれています。しかし、実際には水や空気に誘発される錆により、漏水しているケースが多々あります。これは、錆を防止するために塗装された塗料が紫外線・熱・水により劣化し、保護機能が損なわれていくことが原因です。

従来屋根(金属屋根)の再生には、化粧直しとして錆の処理、塗装の塗り替えが一般的でした。しかし、透湿性を有する従来型の塗装は、数年で再度塗り替えが必要となってしまうことがあります。

FSコート・ゼロは、屋根防水材料に用いられる高弾性のウレタンゴムを厚膜でコーティングし、雨・湿気・空気・腐食性ガスの影響を完全にシャットアウトします。また、遮熱高弾性ウレタンゴムと遮熱コートとの組合せにより、防水効果・防錆効果・防音効果・遮熱効果を付与し、多くのメリットを生み出します。

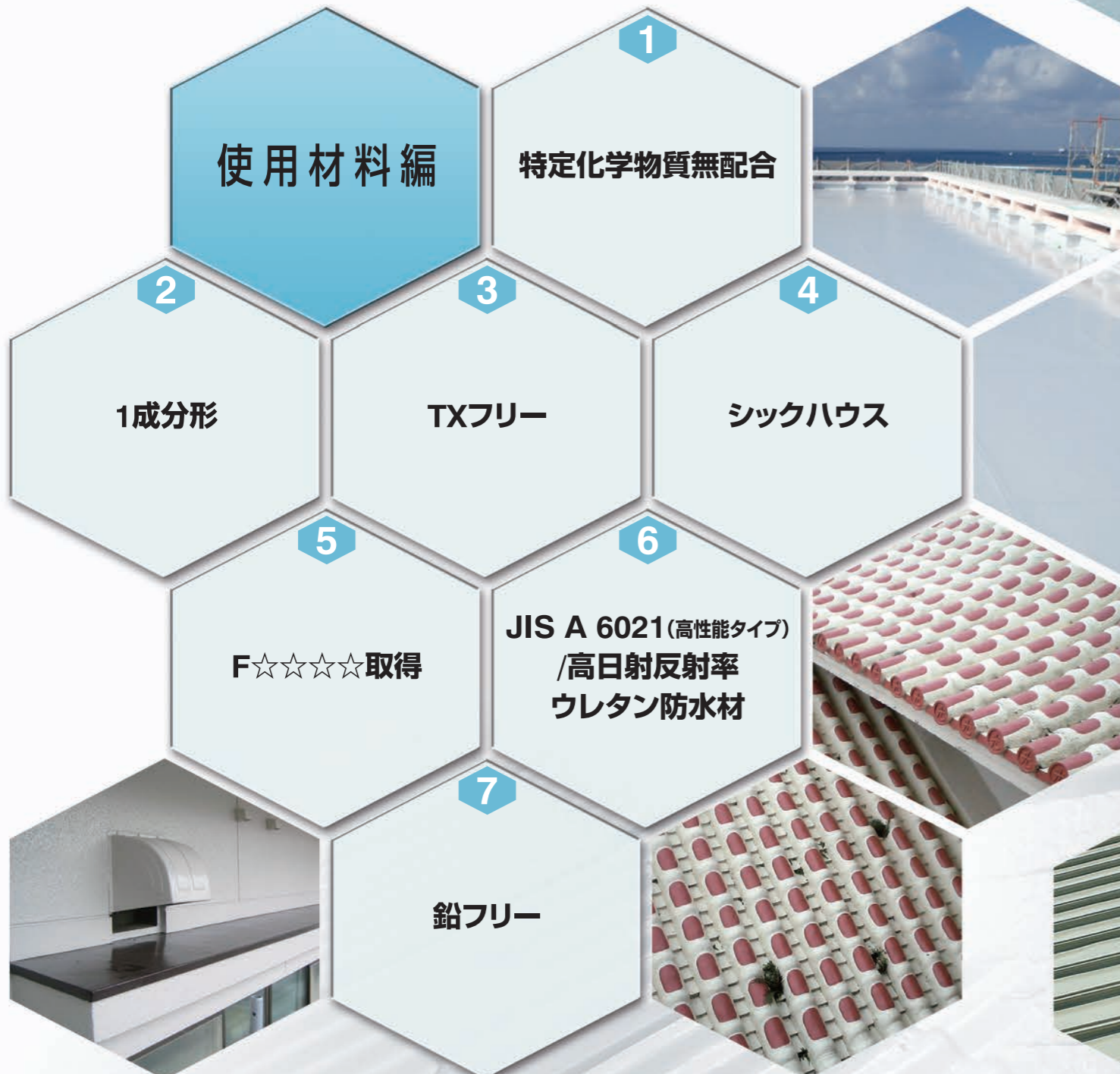
これが、従来の塗装と全く異なるFSコート・ゼロによる再生です。

CONTENTS

FSコート・ゼロの特徴	3	ドーム・勾配屋根改修工法	17
新たな環境基準	5	各種防水改修工法	
FSコート・ゼロ	7	（ベランダ・笠木・庇・ササラ巾木・各種役物）	18
防水効果	8	屋上防水改修工法	19
遮熱トップコート	9	壁面改修工法	21
遮熱効果	10	推奨塗装用吹付機	24
各種金属屋根改修工法	11	参考資料	25
防錆効果	12	製品情報	
スレート屋根改修工法	13	ウレタン塗膜防水材料・プライマー	27
スレート板保護効果	14	トップコート・副資材	28
コロニアル・沖縄瓦屋根工法	15	通気緩衝シート・補強材・下地調整材・その他	29
施工実績	16	使用材料一覧表	30

FSコート・ゼロの特徴

先進の環境対応&塗膜品質&施工効率
ウレタン塗膜防水の新時代が始まります。



新たな環境基準

1 防水材は有機則対象物質を配合していない弱溶剤タイプです。

防水材に含まれている溶剤の臭気は一般的に溶剤臭と呼ばれ、トルエンやキシレン等の刺激臭の強い溶剤が原因であり、この溶剤を取り除く事が出来れば、工事現場の周辺にまで強い臭気が広がる様な作業環境が改善される事になります。私たちは長年の研究と努力により、これらのトルエンやキシレン等の溶剤を防水材から取り除く事が出来ました。(防水材自身の樹脂の臭いは工事中に発生しますが、硬化後はなくなります。)

2 シックハウス症候群を引き起こす原因とされる物質を含みません。

シックハウス症候群とは、建築工事に使用された建材や内装材が含有する化学物質によって室内空気が汚染され、頭痛や吐き気などを引き起こす症状の総称です。

厚生労働省は平成14年より、13の有害物質(ホルムアルデヒド、クロルピリホス、トルエン、キシレン他)の濃度指針値を定めています。文部科学省では、学校の環境を衛生的に維持するためのガイドラインとして「学校環境衛生基準」(シックスクール対策)を示しており、この中では学校の飲料水、プール、学校給食の食品衛生等の検査方法や基準が示されています。

平成14年2月「学校環境衛生基準」の改訂で、教室等の空気中のホルムアルデヒド等、化学物質検査について定められました。国土交通省では平成15年7月からホルムアルデヒドとクロルピリホスが規制対象物質となっています。

FSコート・ゼロはこれらの物質を含んでいません。

各省庁の規制状況

単位: $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ()は必要に応じて測定

所轄省庁法令の名称	厚生労働省	国土交通省	文部科学省
	室内空気汚染に関するガイドライン	改正建築基準法	学校環境衛生の基準
ホルムアルデヒド	100	放散速度で規定	100以下
トルエン	260	—	260以下
キシレン	200	—	200以下
パラジクロロベンゼン	240	—	240以下
エチルベンゼン	3800	—	3800以下
スチレン	220	—	220以下
クロルピリホス	1、小児0.1	使用禁止	—
テトラデカン	330	—	—
ダイアジノン	0.29	—	—
フェノプロカルブ	33	—	—
アセトアルデヒド	48	—	—
フタル酸ジ-n-ブチル	17	—	—
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	100	—	—

3 FSコート・ゼロ工法で用いられる全ての材料はF☆☆☆☆を取得しています。

シックハウス症候群への対応として平成15年4月1日に建築基準法が改正され、第28条の規定に基づき「居室の内装仕上げ」に対して建築材料の使用制限が定められました。

規制対象物質として第20条の4にクロルピリホス(主な用途:白蟻駆除剤)の使用が禁止されるほかホルムアルデヒドは放散速度により4段階の基準が定められています。

ホルムアルデヒド発散建材の分類

ホルムアルデヒド発散建築材料は、室温28°C、相対湿度50%時のホルムアルデヒドの発散速度により、4種類に分類され、内装仕上げの使用が制限されています。

建築材料の区分	表示記号	ホルムアルデヒドの発散速度	使用の制限
建築基準法の規制対象外	F☆☆☆☆	0.005mg/(m ² ・h)以下	使用制限なし
第三種ホルムアルデヒド発散建材	F☆☆☆	0.005 ~ 0.020mg/(m ² ・h)	使用面積が制限される
第二種ホルムアルデヒド発散建材	F☆☆	0.020 ~ 0.120mg/(m ² ・h)	
第一種ホルムアルデヒド発散建材	表示なし	0.120mg/(m ² ・h)超	使用禁止

F☆☆☆☆取得製品一覧表

ウレタン塗膜防水材

建築材料の区分	等級区分	登録番号	備考
FSコート・ゼロ	F☆☆☆☆	NUK-F16872	特定化学物質無配合1成分形ウレタン塗膜防水材

プライマー・トップコート

建築材料の区分	等級区分	登録番号	備考
プライマーR	F☆☆☆☆	NUK-F10552	1成分形ウレタン樹脂プライマー(弱溶剤系)
層間プライマーR	F☆☆☆☆	NUK-F08354	1成分形ウレタン樹脂プライマー(弱溶剤系)
FSエポプライマー	F☆☆☆☆	NUK-F16870	弱溶剤可溶2成分形エポキシ樹脂プライマー
AQプライマー	F☆☆☆☆	NUK-F11603	2成分形エポキシ樹脂プライマー(水系)
プライマーU	F☆☆☆☆	NUK-F09427	1成分形ウレタン樹脂プライマー(溶剤系)
タックコートK-W	F☆☆☆☆	NUK-F11605	2成分形エポキシ樹脂プライマー(溶剤系)
層間プライマーJ	F☆☆☆☆	NUK-F08353	2成分形ウレタン樹脂プライマー(弱溶剤系)
DトップECO	F☆☆☆☆	NUK-F10552	2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート(弱溶剤系)
DトップECO遮熱	F☆☆☆☆	NUK-F16875	2成分形遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート(弱溶剤系)
DトップAS	F☆☆☆☆	NUK-F11626	2成分形アクリルシリコン樹脂トップコート(弱溶剤系)
DトップAS遮熱	F☆☆☆☆	NUK-F17982	2成分形遮熱用アクリルシリコン樹脂トップコート(弱溶剤系)
Dトップフッ素	F☆☆☆☆	NUK-F13777	2成分形フッ素樹脂トップコート(弱溶剤系)
AQトップONE	F☆☆☆☆	NUK-F17984	1成分形アクリルウレタン樹脂トップコート(水系)
AQトップONE遮熱	F☆☆☆☆	NUK-F17989	1成分形遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート(水系)
Dトップ700	F☆☆☆☆	NUK-F11626	2成分形ハルスタイプアクリルウレタン樹脂トップコート(溶剤系)
Dトップ700遮熱	F☆☆☆☆	NUK-F17983	2成分形遮熱用ハルスタイプアクリルウレタン樹脂トップコート(溶剤系)
DトップF ECO	F☆☆☆☆	NUK-F211172	2成分形遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート(弱溶剤系)
SQトップ・ゼロ	F☆☆☆☆	NUK-F231264	2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート(弱溶剤系)速乾タイプ

・弱溶剤系とは、トルエンやキシレンの他、有機溶剤中毒予防規則の対象物質を配合していないことを言います。

4 特定化学物質を含んでいません。

特定化学物質障害予防規則とは

労働安全衛生法の一つで、特定化学物質に指定された化学物質を製造し又は取り扱う場合に適用されます。

ウレタン塗膜防水材の場合、一般的なウレタン塗膜防水材に配合されている

- ①TDI(トリレンジイソシアネート)
- ②MCOA又はMBOCA(3,3-ジクロロ-4,4-ジアミノジフェニルメタン)

これらをその重量の1パーセントを超えて含有する製剤その他の物を含むものを工事に使用する場合、工事中の規制として労働安全衛生法 特定化学物質障害予防規則 に則った取扱いが必要になります。

■ 特定化学物質障害予防規則

主な内容(下記は、特定化学物質障害予防規則より抜粋、要約、補足したものです。)

立ち入り禁止措置	事業者は関係者以外が立ち入ることを禁止し、且つその旨を見易い場所に表示しなければならない。
保護具	事業者は、特定化学物質を製造し、又は取り扱う作業場には、当該物質のガス、蒸気又は粉じんを吸入することによる労働者の健康障害を予防するため必要な呼吸用保護具を備えなければならない。保護眼鏡並びに不透性の保護衣、保護手袋及び保護長靴を使用しなければならない。
作業主任者の選任	事業者は特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習を修了した者のうちから、特定化学物質作業主任者を選任しなければならない。(作業方法の決定、労働者を指揮することあり、作業主任の現場常駐を求められる場合があります)
掲示	取り扱う作業場には、特別管理物質の名称、人体に及ぼす作用、取扱い上の注意事項などを労働者が見やすい箇所に掲示しなければならない。(ウレタン塗膜防水材では前述②MCOAが該当)
作業の記録	事業者は、特別管理物質を製造し、又は取り扱う作業場において常時作業に従事する労働者について、一月を超えない期間ごとに記録し、これを三十年間保存するものとする。(ウレタン塗膜防水材では前述②MCOAが該当)
健康診断	取り扱う作業に従事する労働者に雇入れ時、配置換え時の健康診断実施、以後定期的に実施し、健診結果は前述①TDIは5年間、②MCOAは30年間保存する。

特定化学物質を含んでいません。

5 鉛などの重金属を配合していません。

長期的な耐久性の向上と世界的な鉛原料の削減に対応するために鉛含有硬化促進剤を含んでおりません。

FSコート・ゼロ

FSコート・ゼロは、環境対応型・高物性タイプの「DPワングード・ゼロ」をベースにした「JIS A 6021建築用塗膜防水材ウレタンゴム系高伸張形防水材」です。

吹付施工とローラーが可能で、金属屋根などの複雑な形状でも対応できるように、低粘度でありながらダレにくい性状にアレンジした、特定化学物質無配合1成分形遮熱型ウレタン塗膜防水材の新提案です。

「JIS K 5602:2008 塗膜の日射反射率の求め方」による近赤外域の日射反射率が50%以上の「高日射反射タイプ」です。

◆ FSコート・ゼロは近赤外域における日射反射率が66.9%を保有する「高日射反射率防水」です。

防水型塗装材

FSコート・ゼロ

特定化学物質無配合1成分形遮熱型ウレタン塗膜防水材

手塗り施工および機械圧送による吹き付けによる施工のいずれの施工方法が可能です。



項目	性状・性能	
	FSコート・ゼロ	JIS A 6021 高伸長形 規格値
外観	着色液体（ホワイト）	—
粘度（rpm）	3000～9000	—
引張強度（N/mm ² ）	7.9	2.3以上
引裂強度（N/mm ² ）	32	14以上
伸び率（%）	750	450以上
抗張積（N/mm）	1185	280
硬化物比重	1.4	表示値±0.1
日射反射率	66.9%（近赤外域「JIS K 5602 塗膜の日射反射率の求め方」に準じる）	

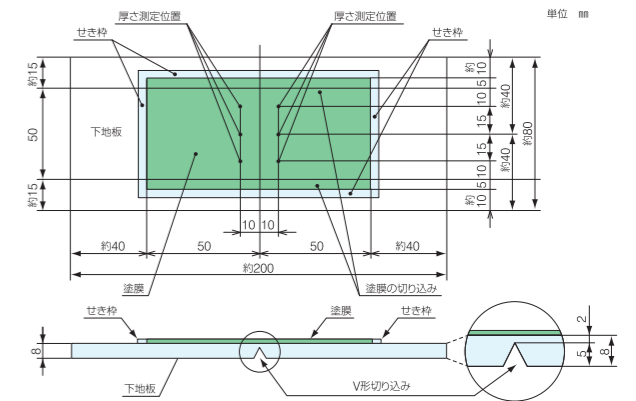


防水効果

金属屋根（鋼板）は、日射による膨張・収縮や建物振動による変形によって雨漏りにつながります。FSコート・ゼロは、屋根用塗膜防水材の主流であるウレタンゴム系塗膜防水材で、JIS規格（JIS A 6021）に適合する性能を有しています。ウレタンゴムの持つ優れたゴム弾性が、繰り返される金属伸縮にも優れた追従性を発揮します。また、金属のジョイントやはげ部、フックボルトなど状況に応じた処理を併用する事で、更に高い防水性能を発揮します。

【耐疲労性能試験（JASS8 防水工事 日本建築学会標準仕様書準拠）】

- 標準状態（23℃、50%）で、下左図のようなスレート下地にFSエポプライマー 0.15kg/m²、FSコート・ゼロ 1.6kg/m²を気泡が入らないように流し込み、7日以上養生した。
- 下右図のようにその試験体長手方向の両端裏に4mm厚さのスペーサーを入れて中央を加圧し下地を割った。
- 試験体を疲労試験機に固定し、-10℃に1時間以上置き、次いでその温度で下地板の亀裂幅0.5～2.5mmの拡大縮小を5回/min.の速度で2000回繰り返した後、亀裂幅を2.5mmの拡大した状態で、塗膜の欠陥（穴あき、裂け、破断）の有無を観察した。
- 試験体は3体とした。



【試験結果】

いずれの試験体も塗膜の穴あき、裂け、破断がなく、規格値を満足していることがわかり、塗膜防水材として下地の動きに対する追従性を十分有していることがわかる。

◆ FSコート・ゼロ FS-2仕様を施工することによりスレート下地に発生するひび割れに追従できることが確認できた。



【耐屈曲性（JIS K 5400 塗料一般試験方法に準拠）】

- 標準状態（23℃、50%）で50×150×0.3mmの鋼板にFSエポプライマー 0.15kg/m²、FSコート・ゼロ 0.8kg/m²、DトップF ECO 0.2kg/m²を塗布し、7日以上養生した。
- 試験体を屈曲試験機に固定し、塗膜を外側にして折り曲げたときの、塗膜の欠陥（割れ・はがれ）の有無を観察した。
- 試験体は3体とした。

【試験結果】

いずれの試験体も塗膜の穴あき、裂け、破断がなく、“折り曲げに耐える”結果となり、塗膜防水材として下地の動きに対する追従性を十分有していることがわかる。

心棒の直径 mm	試験結果
3	3体とも割れ・はがれを認めない
2	3体とも割れ・はがれを認めない
0	3体とも割れ・はがれを認めない

◆ FSコート・ゼロ FS-1仕様を施工することにより金属下地の折れ曲がりにも追従できることが確認できた。

遮熱トップコート

ウレタン塗膜防水材を保護するトップコートに遮熱性能を有する遮熱色を用いることで屋上などの防水施工面の蓄熱を抑えるとともに、防水層の耐久性向上が実現できます。多様なニーズにこたえるため、様々なタイプのトップコートに遮熱色をラインナップしています。

※下記遮熱色はすべて受注生産となります。

環境対応

Dトップ ECO
弱溶剤系のアクリルウレタン樹脂トップコートです。右記以外に可能な日塗工色(20色)をラインナップしています。

DトップECO遮熱
弱溶剤系のアクリルウレタン樹脂トップコートです。

SQトップ・ゼロ高反射色
弱溶剤系のアクリルウレタン樹脂トップコート速乾タイプです。


DトップAS遮熱
高耐久なアクリルシリコン樹脂トップコート(弱溶剤系)です。低汚染性を有しており、遮熱性能を長期的に維持できます。

AQトップONE遮熱
水系のアクリルウレタン樹脂トップコートです。


溶剤系

Dトップ700遮熱
汎用タイプのアクリルウレタン樹脂トップコートです。


Dトップ ECO (色見本)




スカイグレー(N-80)




ヨモギ(35-70H)



ブルー(65-60P)




グレー(N-60)




レンガ(07-40P)

※他、日塗工色(20色)あり


DトップECO遮熱、SQトップ・ゼロ高反射色、DトップAS遮熱、AQトップONE遮熱、Dトップ700遮熱 (共通色見本)




ライトグレー(遮熱色)



ミントグリーン(遮熱色)



ホワイト

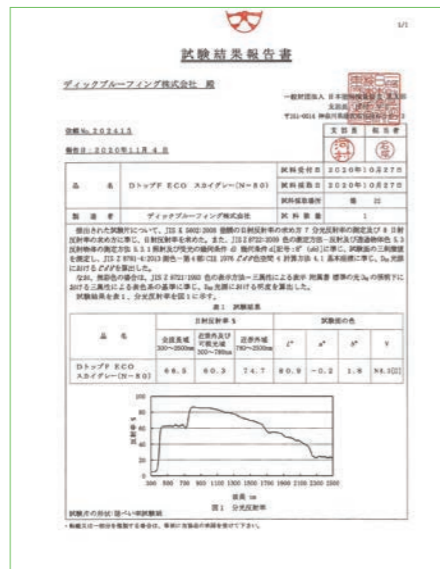


SPLグレー

※SPLグレーは、DトップECO遮熱のみになります。
※SQトップ・ゼロ高反射色は、ライトグレーとミントグリーンのみとなります。

遮熱トップコートの日射反射率データ

遮熱トップコートは、「JIS K5602:2008塗膜の日射反射率の求め方」に準拠、「高日射反射率防水」に必要な近赤外域50%以上をクリア。



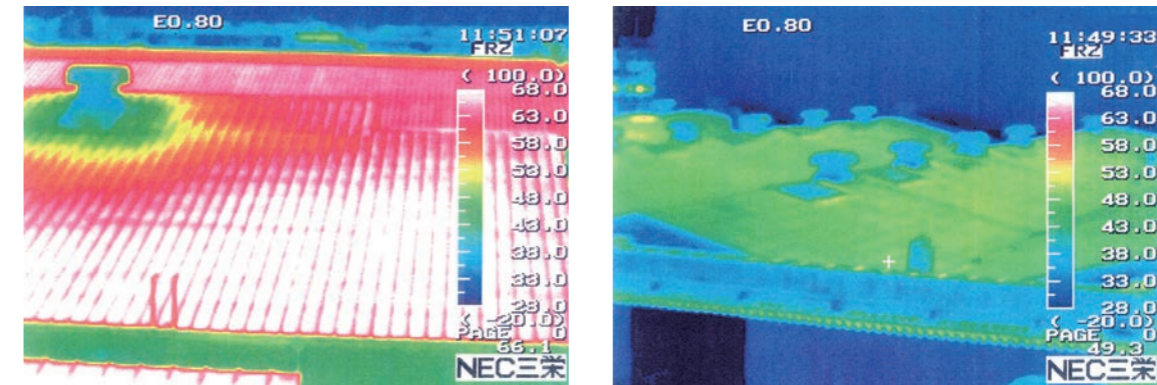
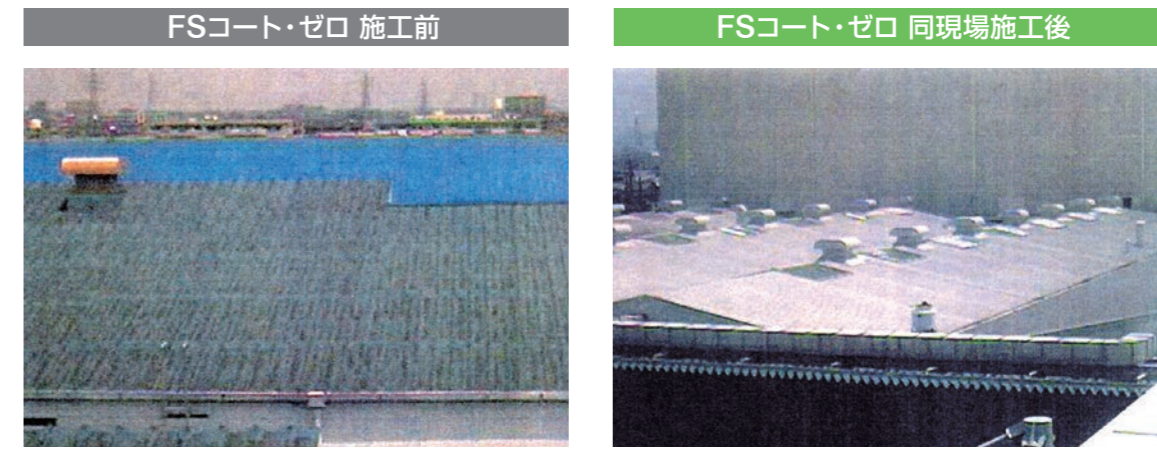
遮熱効果

金属屋根は、真夏の太陽により表面温度が60°C ~ 70°Cに熱せられます。

FSコート・ゼロは、遮熱性能を有したトップコートで仕上げる事により、真夏の炎天下の屋根表面温度を最大10°C ~ 20°C低下させる事が出来ます。この遮熱効果が、階下の温度上昇を防止すると共に、FSコート・ゼロ自体の劣化を低減します。

サーモグラフィーによる温度測定

【未施工・施工後の温度を放射式温度計にて計測】



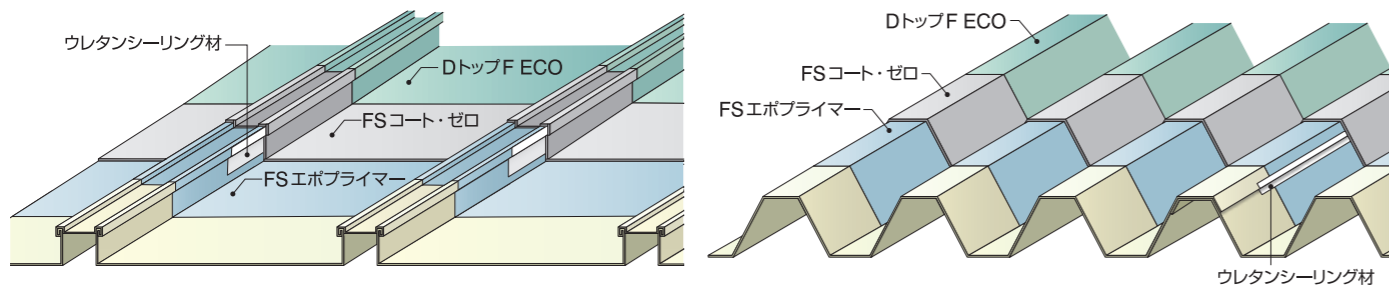
【結果】

◆ FSコート・ゼロ工法に遮熱トップコートを使用すると表面温度が10 ~ 20°C低下することが確認された。

各種金属屋根改修工法



施工前



●標準仕様 FS-1 (折板屋根・瓦棒屋根・その他金属屋根) / 環境対応型トップコート仕様 FS-1R

工程	使用材料	概要	使用量	備考
	—	素地調整		ケレン・清掃等
1	FSエポプライマー	プライマー	0.1kg~	
2	ウレタンシーリング材	はげジョイントおよびビス頭処理		漏水箇所
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※2	
4	DトップF ECO	環境対応型トップコートの場合	0.2kg	※1
	Dトップ700遮熱	溶剤型トップコートの場合		
	ボルトキャップ		個	オプション

※1 トップコートは、シリコン系(遮熱色)、フッ素系(遮熱色)、水性アクリルウレタン系(遮熱色)のオプション仕様が可能です。
 ※2 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

●標準仕様 FS-2 (折板屋根・瓦棒屋根・その他金属屋根) / 環境対応型トップコート仕様 FS-2R

工程	使用材料	概要	使用量	備考
	—	素地調整		ケレン・清掃等
1	FSエポプライマー	プライマー	0.1kg~	
2	ウレタンシーリング材	はげジョイントおよびビス頭処理		
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※2	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※2	
5	DトップF ECO	環境対応型トップコートの場合	0.2kg	※1
	Dトップ700遮熱	溶剤型トップコートの場合		
	ボルトキャップ		個	オプション

※1 トップコートは、シリコン系(遮熱色)、フッ素系(遮熱色)、水性アクリルウレタン系(遮熱色)のオプション仕様が可能です。
 ※2 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

●標準仕様 FS-3 (折板屋根・瓦棒屋根・その他金属屋根) / 環境対応型トップコート仕様 FS-3R

工程	使用材料	概要	使用量	備考
	—	素地調整		ケレン・清掃等
1	FSエポプライマー	プライマー	0.1kg~	
2	ウレタンシーリング材	はげジョイントおよびビス頭処理		
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※2	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※2	
5	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※2	
6	DトップF ECO	環境対応型トップコートの場合	0.2kg	※1
	Dトップ700遮熱	溶剤型トップコートの場合		
	ボルトキャップ		個	オプション

※1 トップコートは、シリコン系(遮熱色)、フッ素系(遮熱色)、水性アクリルウレタン系(遮熱色)のオプション仕様が可能です。
 ※2 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

防錆効果

金属屋根(鋼板)の錆は、空気と水により発生します。つまり、金属屋根を空気層や雨水などが直接触れない様にシャットアウトする事が重要です。

FSコート・ゼロは、金属下地との接着性に優れ、金属面を完全に包み込んでしまう為、空気層や水分からの影響を遮断します。この塗膜構造により、防錆効果を長期にわたり維持します。

また、FSエポプライマーが既存の錆を包み込んで、素地との接触を妨げる錆止め塗料の性能を有する為、錆と素地の反応により発生する錆も防止します。

- FSコート・ゼロ改修工法では、①錆び止めプライマーを使用
 ②ウレタンゴム樹脂の厚膜(合成樹脂塗装の6~8倍)を確保します。

【目的】

JIS K 5400 塗料一般試験方法 9.1耐塩水噴霧性に準拠して防錆効果を検証。

【試験方法】

- 鋼板(150×70×8mm)を溶剤脱脂し、各種工法の試験体を作成。試験体はFSコート・ゼロ工法と他社錆止め塗装仕様について実施。
- 7日間養生後、JIS Z 2371に規定する噴霧装置により塩水噴霧を実施。
- 600、900、1200、1500、1800時間後の外観上の異状(錆び、膨れ、剥がれの有無)とゴバン目セロテープ剥離試験による接着力を測定。

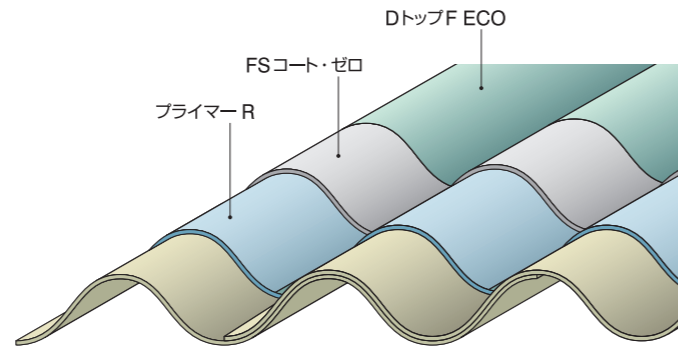
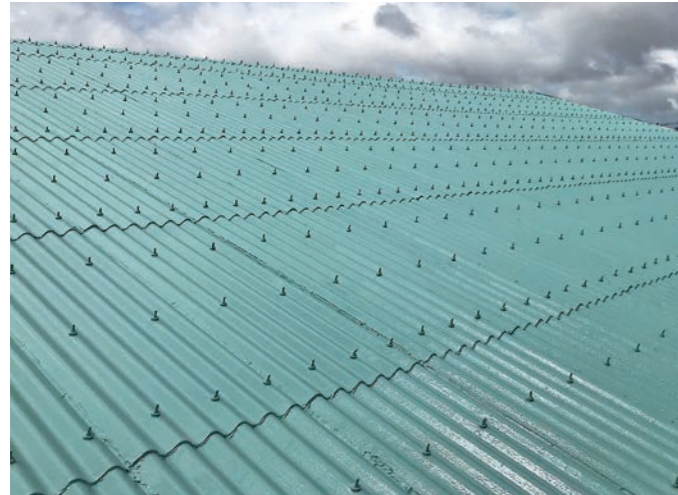
【試験結果】

FSコート・ゼロはFS-1、FS-2、FS-3のいずれの仕様も1800時間まで外観、ゴバン目セロテープ剥離試験共に異状が発生しなかった。市販錆止め塗装仕様は600時間から接着性の低下、1800時間で膨れ現象が確認された。



◆FSコート・ゼロ工法を施工することにより錆止め塗装に較べて優れた防錆効果を得られることが確認できた。

スレート屋根改修工法



●標準仕様 FS-S1 (スレート屋根) / 環境対応仕様 FS-S1R

工程	使用材料	概要	使用量	備考
	—	素地調整		ケレン・清掃等
1	プライマーR 又は プライマーU	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.1kg~	※1
2	ウレタンシーリング材	はげジョイントおよびビス頭処理		漏水箇所
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	
4	Dトップ ECO Dトップ700遮熱	環境対応型トップコートの場合 溶剤型トップコートの場合	0.2kg	※2
	ボルトキャップ		個	オプション

※1 既存屋根が塗装済の場合は、必要に応じてプライマーの接着試験を実施してください。
 ※2 トップコートは、シリコン系(遮熱色)、フッ素系(遮熱色)、水性アクリルウレタン系(遮熱色)のオプション仕様が可能です。
 ※3 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

●標準仕様 FS-S2 (スレート屋根) / 環境対応仕様 FS-S2R

工程	使用材料	概要	使用量	備考
	—	素地調整		ケレン・清掃等
1	プライマーR 又は プライマーU	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.1kg~	※1
2	ウレタンシーリング材	はげジョイントおよびビス頭処理		漏水箇所
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	
5	Dトップ ECO Dトップ700遮熱	環境対応型トップコートの場合 溶剤型トップコートの場合	0.2kg	※2
	ボルトキャップ		個	オプション

※1 既存屋根が塗装済の場合は、必要に応じてプライマーの接着試験を実施してください。
 ※2 トップコートは、シリコン系(遮熱色)、フッ素系(遮熱色)、水性アクリルウレタン系(遮熱色)のオプション仕様が可能です。
 ※3 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

●標準仕様 FS-S3 (スレート屋根) / 環境対応仕様 FS-S3R

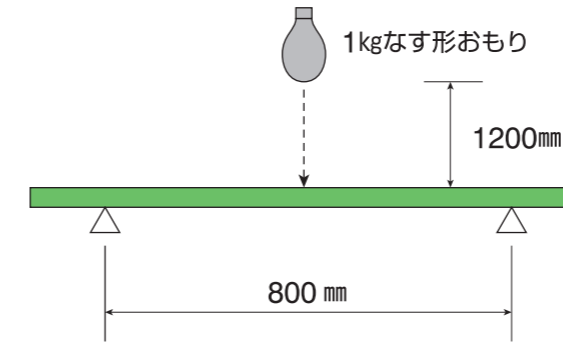
工程	使用材料	概要	使用量	備考
	—	素地調整		ケレン・清掃等
1	プライマーR 又は プライマーU	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.1kg~	※1
2	ウレタンシーリング材	はげジョイントおよびビス頭処理		
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	
5	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	
6	Dトップ ECO Dトップ700遮熱	環境対応型トップコートの場合 溶剤型トップコートの場合	0.2kg	※2
	ボルトキャップ		個	オプション

※1 既存屋根が塗装済の場合は、必要に応じてプライマーの接着試験を実施してください。
 ※2 トップコートは、シリコン系(遮熱色)、フッ素系(遮熱色)、水性アクリルウレタン系(遮熱色)のオプション仕様が可能です。
 ※3 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

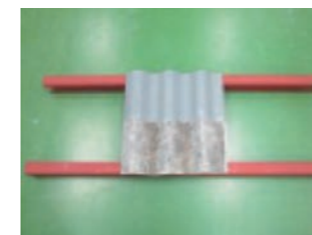
スレート板保護効果

JIS A 5430繊維強化セメント板の衝撃試験方法を参考にして経年後のスレート板にFS-S2仕様を施工した場合の保護効果を確認しました。

【衝撃試験方法】



(参考)耐衝撃性	①スレート下地(無処理)	②FS-S2仕様
衝撃試験方法	×(貫通孔)	△(裏面に亀裂)



試験体
下半分が①スレート下地(無処理)
上半分が②FS-S2仕様



1kgなす形おもり



①スレート下地(無処理)の試験後
貫通孔が発生



①同左



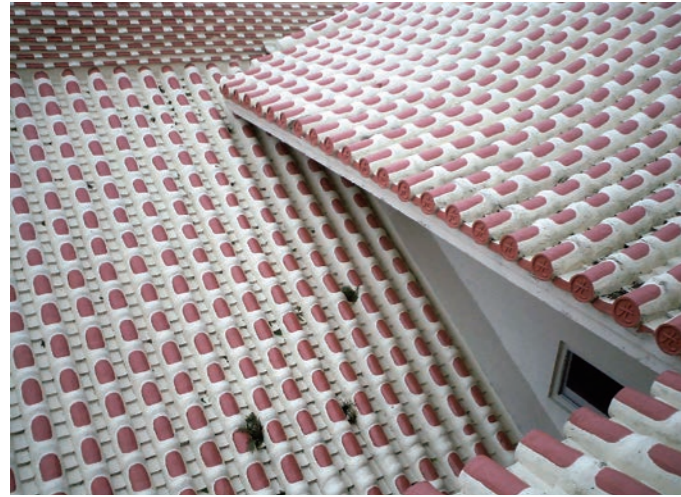
②FS-S2仕様の試験後
表面は異常なし、裏面のスレート板に亀裂発生

■試験結果、考察

◇試験方法は、①スレート下地無処理、②FS-S2仕様を施工した面に、高さ1.2mからなす形おもり1kgを落下させて状態を観察した。
 ※本試験は「貫通孔、亀裂及び割れないこと」を合格としている(本条件を参考資料1に示す)。

◆FSコート・ゼロ FS-S2仕様を施工することにより耐衝撃性が向上していることが確認できた。したがって、保護効果があると判定した。

コロニアル・沖縄瓦屋根工法 (琉球あかがーら防水遮熱工法)



●標準仕様 FS-SK2 (コロニアル・沖縄瓦) / 環境対応仕様 FS-SK2R

工 程	使用材料	概 要	使用量	備 考
1	ダブルテックスNEO	エポキシ系ポリマーセメントモルタル	0.8kg~	※1
2	プライマー-R 又は プライマー-U	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.1kg~	
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	
5	Dトップ ECO Dトップ700遮熱	環境対応型トップコートの場合 溶剤型トップコートの場合	0.15kg	※2

※1 下地の破損、段差、浮き等の素地調整を別途行ってください。

※2 トップコートは、シリコン系(遮熱色)、フッ素系(遮熱色)、水性アクリルウレタン系(遮熱色)のオプション仕様が可能です。

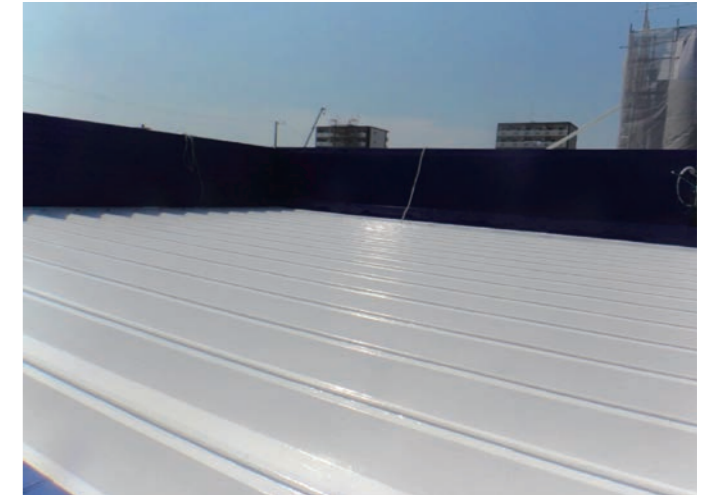
※3 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。



施工実績



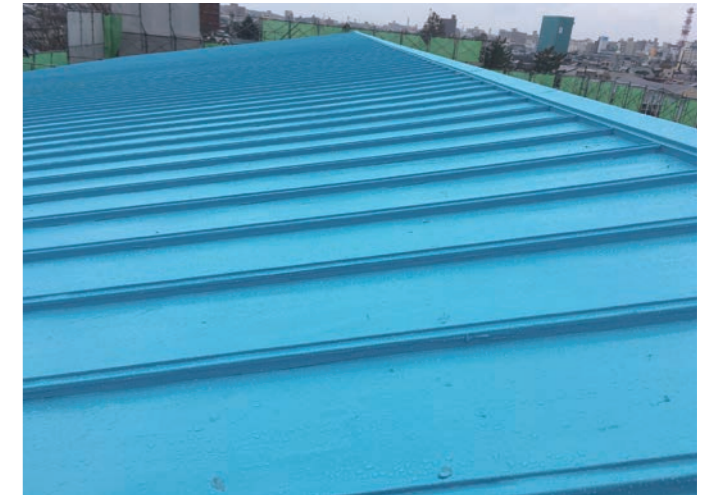
長野県



岐阜県



愛知県



秋田県

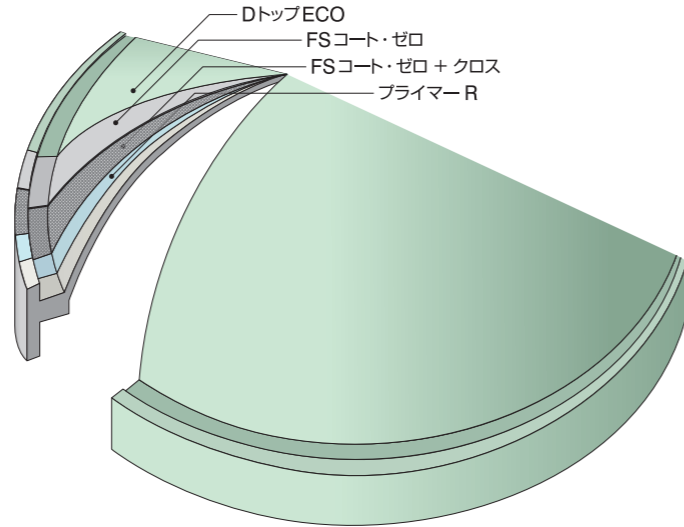


宮崎県



鹿児島県

ドーム・勾配屋根改修工法



●標準仕様 FS-R-2C (クロス入り密着工法) 立上りの場合X-2相当 / 環境対応仕様 FS-R-2CR (クロス入り密着工法)

工程	使用材料	概要	使用量	備考
1	プライマー-R 又は プライマー-U	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.2kg	※1
2	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.5kg	※2
3	クロス	補強布	1.1m	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.0kg ※4	
5	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.9kg ※4	
6	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.9kg ※4	
7	DトップECO Dトップ700	環境対応型トップコートの場合 溶剤型トップコートの場合	0.2kg	※3

※1 下地がウレタン塗膜防水の場合、層間プライマー-Jまたは層間プライマー-R 0.1kg/m²で対応可能です。

※2 FSコートをDPワンガード・ゼロ立上り用に変更することも可能です。

※3 トップコートは、アクリルウレタン系、シリコン系、フッ素系、水性アクリルウレタン系、遮熱タイプのオプション仕様が可能です。

※4 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。



施工前



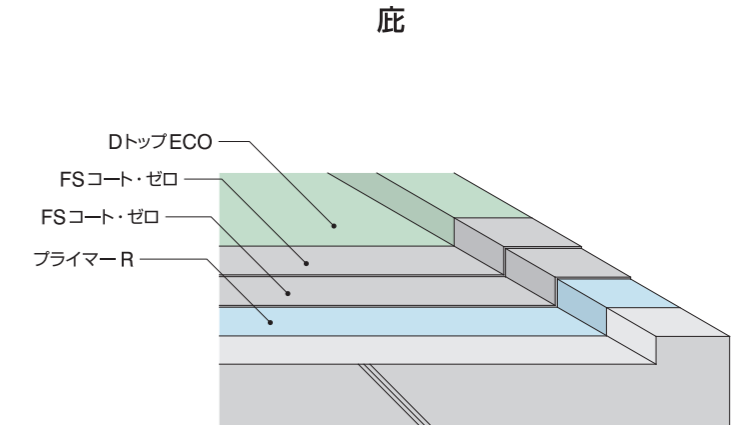
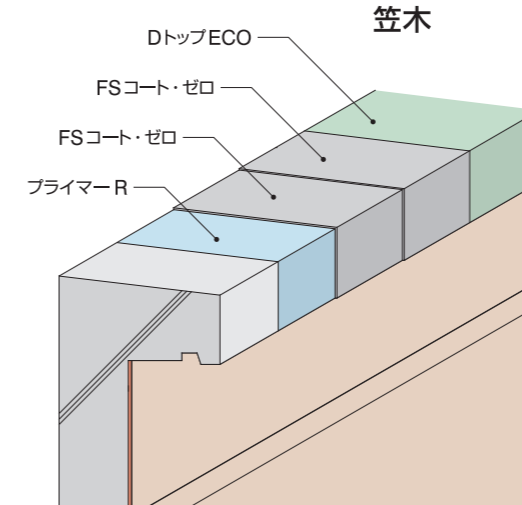
下地処理



FSコート・ゼロ吹付



各種防水改修工法 (ベランダ・笠木・庇・ササラ巾木・各種役物)



●標準仕様 FS-R-2 (笠木、庇、各種役物) (クロスなし密着工法) / 環境対応仕様 FS-R-2R (クロスなし密着工法)

工程	使用材料	概要	使用量	備考
1	プライマー-R 又は プライマー-U	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.2kg	※1
2	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※3	同上
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※3	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※3	
5	DトップECO Dトップ700	環境対応型トップコートの場合 溶剤型トップコートの場合	0.2kg	※2

※1 下地がウレタン塗膜防水の場合、層間プライマー-Jまたは層間プライマー-R 0.1kg/m²で対応可能です。

※2 トップコートは、アクリルウレタン系、シリコン系、フッ素系、水性アクリルウレタン系、遮熱タイプのオプション仕様が可能です。

※3 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

●標準仕様 FS-R-1.5 既存ウレタン防水の重ね塗り (笠木、庇、各種役物) (平場・立上り共通クロスなし密着工法) / 環境対応仕様 FS-R-1.5R (平場・立上り共通クロスなし密着工法)

工程	使用材料	概要	使用量	備考
1	層間プライマー-R 又は 層間プライマー-J	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.2kg	
2	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.9kg ※2	
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※2	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※2	
5	DトップECO Dトップ700	環境対応型トップコートの場合 溶剤型トップコートの場合	0.2kg	※1

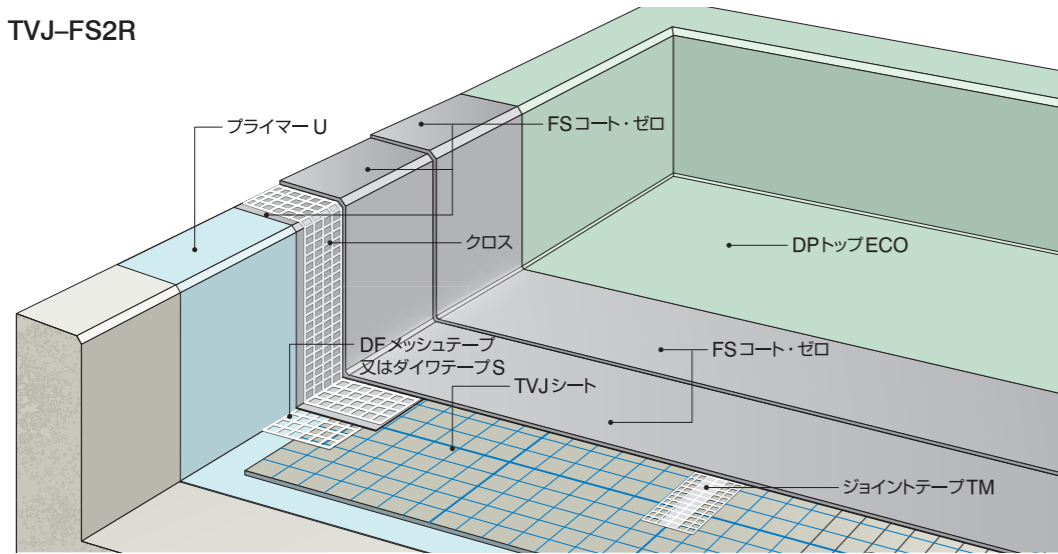
※1 トップコートは、アクリルウレタン系、シリコン系、フッ素系、水性アクリルウレタン系、遮熱タイプのオプション仕様が可能です。

※2 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

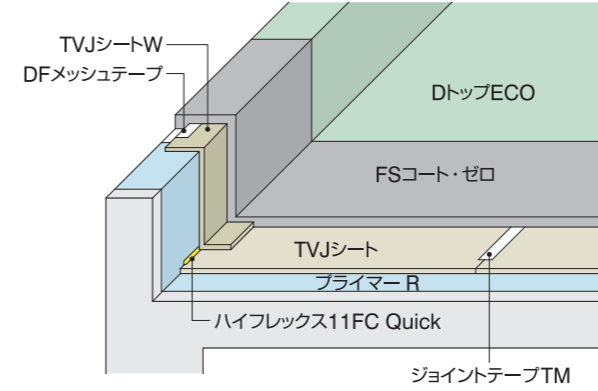


屋上防水改修工法

TVJ-FS2R

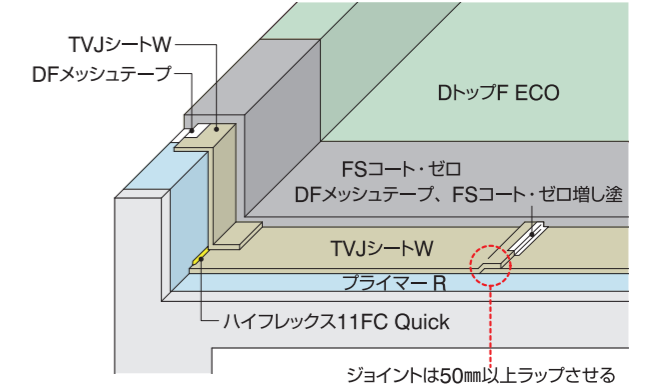


平場TVJ工法・立上りTVJ-W工法の場合



※末端は押さえ金物で施工することも可能です。
※立上りのTVJシートW重ねジョイントにはDFメッシュテープを張ります。

平場・立上りTVJ-W工法の場合



※末端は押さえ金物で施工することも可能です。
※立上りのTVJシートW重ねジョイントにはDFメッシュテープを張ります。

屋上防水仕様(TVJ) FSコート・ゼロ仕様

平場

●標準仕様 TVJ-FS2 (通気緩衝工法) / 環境対応仕様 TVJ-FS2R (通気緩衝工法)

工程	使用材料	概要	使用量	備考
1	プライマー-R 又は プライマー-U	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.2kg	※1
2	TVJシート	通気緩衝シート	1.0m	現場の形状により 使用量が異なります。
	ジョイントテープTM	シートジョイント張り用	1.2m	
	ダイワテープS又はDFメッシュテープ	シート末端張り用	0.3m	
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※4	※2
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※4	
5	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※4	
6	DトップECO	環境対応型トップコートの場合	0.2kg	※3
	Dトップ700	溶剤型トップコートの場合		

※1 下地がウレタン塗膜防水の場合、層間プライマー-Jまたは層間プライマー-R 0.1kg/m²で対応可能です。
※2 状況により工程数を増やす事も可能です。
※3 トップコートは、アクリルウレタン系、シリコン系、フッ素系、水性アクリルウレタン系、遮熱タイプのオプション仕様が可能です。
※4 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

●標準仕様 FS-2C (クロス入り密着工法) / 環境対応仕様 FS-2CR (クロス入り密着工法)

工程	使用材料	概要	使用量	備考
1	プライマー-R 又は プライマー-U	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.2kg	※1
2	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.5kg	
3	クロス	補強布	1.1m	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.0kg ※2	
5	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.9kg ※2	
6	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.9kg ※2	
7	DトップECO	環境対応型トップコートの場合	0.2kg	平場の仕様に合わせて 選択します。
	Dトップ700	溶剤型トップコートの場合		

※1 下地がウレタン塗膜防水の場合、層間プライマー-Jまたは層間プライマー-R 0.1kg/m²で対応可能です。
※2 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

●標準仕様 FS-2 (クロスなし密着工法) / 環境対応仕様 FS-2R (クロスなし密着工法)

工程	使用材料	概要	使用量	備考
1	プライマー-R 又は プライマー-U	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.2kg	※1
2	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※2	
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※2	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※2	
5	DトップECO	環境対応型トップコートの場合	0.2kg	平場の仕様に合わせて 選択します。
	Dトップ700	溶剤型トップコートの場合		

※1 下地がウレタン塗膜防水の場合、層間プライマー-Jまたは層間プライマー-R 0.1kg/m²で対応可能です。
※2 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

屋上防水仕様(TVJW) FSコート・ゼロ仕様

平場

●標準仕様 TVJW-FS (緩衝工法) / 環境対応仕様 TVJW-FSR (緩衝工法)

工程	使用材料	概要	使用量	備考
1	プライマー-R 又は プライマー-U	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.2kg	※1
2	TVJシートW	緩衝シート	1.05m	現場の形状により 使用量が異なります。
	DFメッシュテープ	シートジョイント張り用	1.2m	
	FSコート・ゼロ	シートジョイント増し塗用	0.4kg	
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※3	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※3	
5	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	1.1kg ※3	
6	DトップECO	環境対応型トップコートの場合	0.2kg	※2
	Dトップ700	溶剤型トップコートの場合		

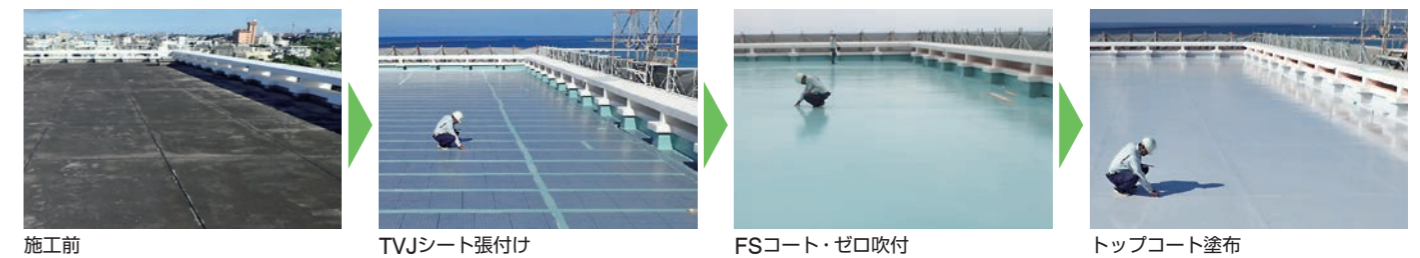
※1 下地がウレタン塗膜防水の場合、層間プライマー-Jまたは層間プライマー-R 0.1kg/m²で対応可能です。
※2 トップコートは、アクリルウレタン系、シリコン系、フッ素系、水性アクリルウレタン系、遮熱タイプのオプション仕様が可能です。
※3 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

立上り共通

●標準仕様 TVJW-FSW (緩衝工法) / 環境対応仕様 TVJW-FSWR (緩衝工法)

工程	使用材料	概要	使用量	備考
1	プライマー-R 又は プライマー-U	環境対応型プライマーの場合 溶剤型プライマーの場合	0.2kg	※1
2	TVJシートW	緩衝シート	1.05m	現場の形状により 使用量が異なります。
	DFメッシュテープ	シートジョイント張り用	1.2m	
	FSコート・ゼロ	シートジョイント増し塗用	0.4kg	
	ハイフレックス11FC Quick	シート入隅シーリング	0.3m	
	DFメッシュテープ	シート末端張り用	0.3m	
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	
4	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	
5	DトップECO	環境対応型トップコートの場合	0.2kg	※2
	Dトップ700	溶剤型トップコートの場合		

※1 下地がウレタン塗膜防水の場合、層間プライマー-Jまたは層間プライマー-R 0.1kg/m²で対応可能です。
※2 トップコートは、アクリルウレタン系、シリコン系、フッ素系、水性アクリルウレタン系、遮熱タイプのオプション仕様が可能です。
※3 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。



施工前

TVJシート張付け

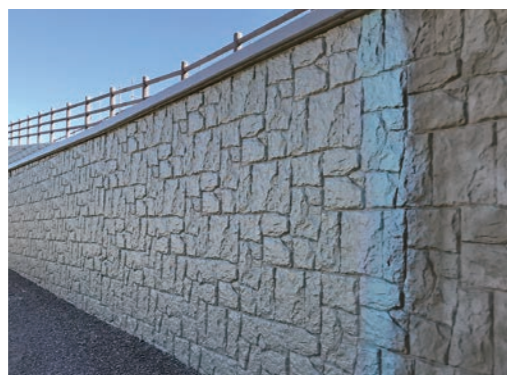
FSコート・ゼロ吹付

トップコート塗布

壁面改修工法



施工前



作業手順



施工前



下地処理(ポリマーセメントモルタル)



FSコート・ゼロ吹付塗布後



トップコート塗布



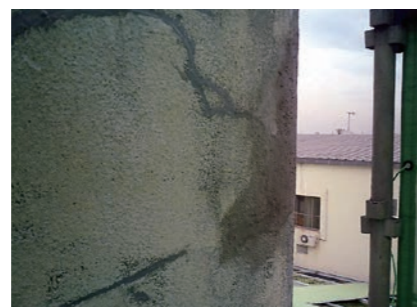
壁面改修工法



作業手順



①施工前



②下地処理(ひび割れ・欠損処理)



③下地処理(カチオンフィラー)



④プライマー塗布



⑤FSコート・ゼロ塗布



⑥完成

●標準仕様 FS-W2 壁面(外壁・コンクリート保護) / 環境対応仕様 FS-W2R

工程	使用材料	概要	使用量	備考
1	プライマー-R 又は AQプライマー	環境対応型プライマーの場合 水系プライマーの場合	0.15kg~	※1
2	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	ローラ施工も可能
3	FSコート・ゼロ	1液ウレタン防水材	0.8kg ※3	同上
4	DトップECO DトップW	環境対応型トップコートの場合 水系トップコートの場合	0.15kg	※2
5	DトップECO DトップW	環境対応型トップコートの場合 水系トップコートの場合	0.15kg	※2

※1 既存面が塗装済の場合は、必要に応じてプライマーの接着試験を実施してください。プライマー-Wを使用する場合は、DトップW仕上げをしてください。
 ※2 トップコートは、アクリルウレタン系、シリコン系、フッ素系、水性アクリルウレタン系、遮熱タイプのオプション仕様が可能です。
 ※3 ローラーで塗る場合は使用量を確保出来ないため、塗布回数を増やして下さい。

推奨塗装用吹付機

たいる君 / 精和産業(株)

K-1500MP
(ストレートパイプ仕様)



型式	TK-1500MP
最高吐出圧力	18MPa
最大吐出量	4.3 リットル/分
駆動方式	直流モーター直結式
電源	AC100V (50Hz/60Hz)
圧力制御方式	歪ゲージ式
定格出力	1.5 PS
寸法 (L×W×H)	48×68×81 (cm)
本体重量	42kg

タイルエース / 精和産業(株)

TA-500GX
TA-900GX



型式	TA-500GX	TA-900GX
最高吐出圧力	18MPa	14MPa
最大吐出量	6.0 リットル/分	9.0 リットル/分
駆動方式/定格出力	OHVガソリンエンジン 6.0 PS	
寸法 (L×W×H)	73×53×80 (cm)	
本体重量	60kg	62kg

マークファイブ / グラコ(株)

Mark V



型式	Mark V
最大チップサイズ	0.039
最高吐出圧力	22.7MPa
最大吐出量	5.1 リットル/分
必要電圧	20 A
寸法 (L×W×H)	75 x 57.2 x 99 (cm)
本体重量	68kg

エコポンスーパー / 旭サナック(株)

SP2554



型式	SP2554	
圧力比	1 : 45	
最高吐出圧力	22.5MPa	
吐出量	常用	6 リットル/分
	最大	20 リットル/分
定格出力	連続7.5 PS / 5断続 PS	
寸法 (L×W×H)	60 x 72 x 128 (cm)	
本体重量	108kg	

参考資料

屋根における面積算出方法について

屋根における面積算出方法は、下記の形状による倍率を乗じてください。

代表的な金属屋根及びスレート屋根の面積倍率表

種類	No.	断面図	倍率
折板屋根	1-1		1.44倍
	1-2		1.67倍
	1-3		1.49倍
	1-4		1.70倍
	1-5		1.44倍
	1-6		1.46倍
	2-1		1.36倍
	2-2		1.62倍

※ 倍率はあくまでも概算であり、現場実測をお願いします。

代表的な金属屋根及びスレート屋根の面積倍率表

種類	No.	断面図	倍率
折板屋根	3-1		1.44倍
	3-2		1.71倍
瓦棒屋根	1		1.24倍
	2		1.26倍
	3		1.29倍
	4		1.31倍
スレート屋根	1		1.15倍
	2		1.20倍

※ 倍率はあくまでも概算であり、現場実測をお願いします。

ウレタン塗膜防水材・プライマー

FSコート・ゼロ



タイプ	特定化学物質無配合1成分形遮熱型ウレタン塗膜防水材
化学物質	特定化学物質無配合
荷姿	18kg/缶

プライマー R



タイプ	1成分形ウレタン樹脂プライマー(弱溶剤系)
用途	モルタル、コンクリート下地用
荷姿	16kg/缶

プライマー U



タイプ	1成分形ウレタン樹脂プライマー(溶剤系)
用途	コンクリート・モルタル下地用
荷姿	16kg/缶

FSエポプライマー



タイプ	弱溶剤可溶2成分形エポキシ樹脂プライマー
用途	金属下地用(防錆プライマー)
荷姿	16kg/セット(主剤 14.4kg/硬化剤 1.6kg)
配合比	9 : 1

タックコートK-W



タイプ	2成分形エポキシ樹脂プライマー
用途	モルタル、コンクリート、金属下地用
荷姿	12kg/セット(主剤 6kg/硬化剤 6kg)
配合比	1 : 1

AQプライマー



タイプ	2成分形エポキシ樹脂プライマー(水系)
用途	コンクリート・モルタル下地用
荷姿	16kg/プラスチックペール缶(材料内封)
配合比	主剤 : 硬化剤 = 1 : 1

AQプライマーバリア



タイプ	2成分形エポキシ樹脂プライマー(水系)
用途	シングル・露出アスファルト防水下地用
荷姿	15kg/プラスチックペール缶(材料内封)
配合比	主剤 : 硬化剤 = 4 : 1

層間プライマー R



タイプ	1成分形ウレタン樹脂プライマー(弱溶剤系)
用途	既存ウレタン下地、既存塩ビシート下地用
荷姿	14kg/缶

層間プライマー J



タイプ	2成分形ウレタン樹脂プライマー(溶剤系)
用途	既存ウレタン下地用
荷姿	12kg/セット(主剤 6kg/硬化剤 6kg)
配合比	1 : 1

トップコート・副資材

DトップF ECO



タイプ	遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート(弱溶剤系)
カラー	P.9参照
荷姿	15kg/セット(主剤 6kg/硬化剤 9kg)
配合比	2 : 3

DトップECO遮熱



タイプ	遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート(弱溶剤系)
カラー	P.9参照
荷姿	15kg/セット(主剤 6kg/硬化剤 9kg)
配合比	2 : 3

Dトップ700遮熱



タイプ	遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート(溶剤系)
カラー	P.9参照
荷姿	14kg/セット(主剤 6kg/硬化剤 8kg)
配合比	3 : 4

DトップAS遮熱



タイプ	遮熱用アクリルシリコン樹脂トップコート(弱溶剤系)
カラー	P.9参照
荷姿	15kg/セット(主剤 6kg/硬化剤 9kg)
配合比	2 : 3

AQトップONE遮熱



タイプ	1成分形遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート(水系)
カラー	P.9参照
荷姿	15kg/缶

DトップECO



タイプ	アクリルウレタン樹脂トップコート(弱溶剤系)
カラー	色見本帳参照
荷姿	15kg/セット(主剤 6kg/硬化剤 9kg)
配合比	2 : 3

Dトップ700



タイプ	アクリルウレタン樹脂トップコート(溶剤系)
カラー	色見本帳参照
荷姿	14kg/セット(主剤 6kg/硬化剤 8kg) 7kg/セット(主剤 3kg/硬化剤 4kg)
配合比	3 : 4

DトップAS



タイプ	アクリルシリコン樹脂トップコート(弱溶剤系)
カラー	色見本帳参照
荷姿	15kg/セット(主剤 6kg/硬化剤 9kg)
配合比	2 : 3

SQトップ・ゼロ



タイプ	2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート(弱溶剤系)速乾タイプ
カラー	色見本帳参照
荷姿	15kg/セット

AQトップONE



タイプ	1成分形アクリルウレタン樹脂トップコート(水系)
カラー	色見本帳参照
荷姿	15kg/缶

USキシャク剤



タイプ	ウレタン塗膜防水材用希釈剤
荷姿	15kg/缶

US環境キシャク剤



タイプ	環境対応型ウレタン塗膜防水材用希釈剤
荷姿	12kg/缶

製品情報

通気緩衝シート・補強材・下地調整材・その他

TVJシート



タイプ	自着層付き通気緩衝シート (非加硫ブチルゴム系)
荷姿	巾1m × 10m/巻(24kg)

TVJシートW



タイプ	自着層付き多機能絶縁シート (非加硫ブチルゴム系)
荷姿	巾1m × 10m/巻(16kg)

自着シート



タイプ	自着層付き通気緩衝シート (改質アスファルト系)
荷姿	巾1.04m × 15m/巻(23kg)

LSメッシュ



タイプ	ガラス繊維製補強布
荷姿	巾1.04m × 100m/巻

クロス



タイプ	ガラス繊維製補強布
荷姿	巾1.04m × 100m/巻

クロスSF-400



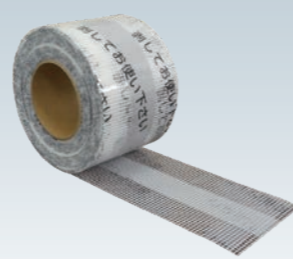
タイプ	ガラス繊維製補強布
荷姿	巾1.04m × 100m/巻

LSメッシュ・ソフト



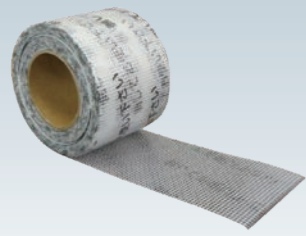
タイプ	ポリエステル繊維製補強布
荷姿	巾1.02m × 50m/巻

ジョイントテープTM



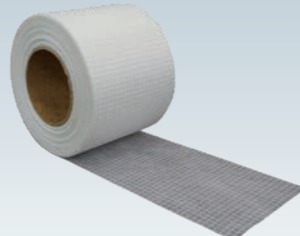
タイプ	粘着層付き
用途	ジョイント補強用テープ
荷姿	巾100m × 50m/巻

DFメッシュテープ



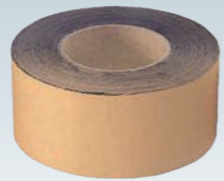
タイプ	繊維補強布
用途	端末補強用粘着付テープ
荷姿	巾100m × 50m/巻

ダイワテープS



タイプ	繊維補強布
用途	端末補強用テープ
荷姿	巾100m × 100m/巻・4/巻袋

FJテープ (50, 70, 100, 150, 200)



タイプ	ブチルゴム系
用途	ジョイント処理用
荷姿	20m/巻 ※200mmのみ受注生産 (巾50, 70, 100, 150, 200mm)

ダブルテックスNEO



タイプ	エポキシ系ポリマーセメントモルタル
用途	仮防水材としても使用可能
荷姿	20kg/缶 (主剤14kg/ 混和液A 5kg/ 混和液B 1kg)
配合比	14 : 5 : 1

ステンレスベントN



タイプ	ステンレス製脱気筒
荷姿	2個/箱

シーカフレックス® 11FC Quick



タイプ	1成分ポリウレタン系シーリング材
荷姿	320mL × 10本/箱

使用材料一覧表

一般名称	品名	荷姿・入目	備考
溶剤系プライマー	プライマー-U	16kg/缶	コンクリート、モルタル下地用1成分ウレタン樹脂プライマー(溶剤系)
	タックコートK-W	12kg/セット	コンクリート、モルタル、及び金属下地用2成分エポキシ樹脂プライマー(溶剤系)
	層間プライマー-J	12kg/セット	既存ウレタン下地用2成分ウレタン樹脂プライマー(溶剤系)
環境対応型プライマー	FSエポプライマー	16kg/セット	金属下地用弱溶剤可溶2成分エポキシ樹脂プライマー(防錆プライマー)
	プライマー-R	16kg/缶	コンクリート、モルタル下地用1成分ウレタン樹脂プライマー(弱溶剤系)
	AQプライマー	16kg/缶	コンクリート、モルタル、既存ゴムシート下地用2成分エポキシ樹脂プライマー(水性)【袋入り材料を内封】
	層間プライマー-R	14kg/缶	1成分ウレタン・塩ビシート下地用ウレタン樹脂系プライマー(弱溶剤系*)
環境対応型防水型塗装材	FSコート・ゼロ	18kg/缶	特定化学物質無配合1成分遮熱型ウレタン塗膜防水材
溶剤型仕上げ塗料	Dトップ700	7kg/セット・14kg/セット	2成分ハルスタイプアクリルウレタン樹脂トップコート(溶剤系)
	Dトップ700遮熱	14kg/セット	2成分ハルスタイプ遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート(溶剤系)
環境対応型仕上げ塗料	DトップF ECO	15kg/セット	2成分遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート(弱溶剤系*)
	DトップAS	15kg/セット	2成分アクリルシリコン樹脂トップコート(弱溶剤系*)
	DトップAS遮熱	15kg/セット	2成分遮熱用アクリルシリコン樹脂トップコート(弱溶剤系*)
	AQトップONE	15kg/缶	1成分アクリルウレタン樹脂トップコート(水系)
	AQトップONE遮熱	15kg/缶	1成分遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート(水系)
	DトップECO	15kg/セット	2成分アクリルウレタン樹脂トップコート(弱溶剤系*)
	DトップECO遮熱	15kg/セット	2成分遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート(弱溶剤系*)
	SQトップ・ゼロ	15kg/セット	2成分遮熱用アクリルウレタン樹脂トップコート 速乾タイプ(弱溶剤系*)
希釈剤	USキシャク剤	15kg/缶	ウレタン塗膜防水材用希釈剤
	US環境キシャク剤	12kg/缶	環境対応型ウレタン塗膜防水材用希釈剤
シーリング剤	シーカフレックス 11FC Quick	320mL × 10本/箱	1成分ポリウレタン系シーリング材
下地調整剤	ダブルテックスNEO	20kg/缶(セット)	防水下地調整用エポキシ系ポリマーセメント
自着層付き通気緩衝シート	TVJシート	1m × 10m/巻	自着層付非加硫ブチルゴム系通気緩衝シート
	自着シート	1m × 15m/巻	自着層付改質アスファルトシート系通気緩衝シート
自着層付き絶縁シート	TVJシートW	1m × 10m/巻	非加硫ブチルゴム系補強緩衝シート
シート補強布	クロス	1.04m × 100m/巻	平場・立上り共通ウレタン塗膜防水材用補強布(材質:ガラス繊維)
	クロスSF-400	1.04m × 100m/巻	
	LSメッシュ	1.04m × 100m/巻	
	LSメッシュソフト	1.02m × 50m/巻	平場・立上り共通ウレタン塗膜防水材用補強布(材質:ポリエステル繊維)
副資材	ジョイントテープTM	100mm × 50m/巻	通気緩衝シート用ジョイントテープ
	ダイワテープS	100mm × 100m/巻 4巻/箱	通気緩衝シート用端末補強布テープ
	DFメッシュテープ	100mm × 50m/巻	通気緩衝シート用端末補強布テープ、ランスロックシート用ジョイントテープ
	FJテープ	50mm・70mm・100mm・150mm・200mm × 20m/巻	ランスロックキャントN、TルーフプレートA型用絶縁テープ、金属屋根接合部絶縁用テープ
脱気筒	ステンレスベントN	2個/箱	ステンレス製脱気装置 床面設置用

* 弱溶剤系とは、トルエンやキシレンの他、有機溶剤中毒予防規則の対象物質を配合していないことを言います。